

報告



福祉介護課では、認知症への理解を深めていただくことを目的として、10月13日に「誰もが安心して暮らせるまち 大山町へ」一足先に認知症になった私たちからあなたへ」と題してパネルディスカッションを開催しました。

パネラーには認知機能の低下がみられる方が本人が登壇し、「困っていること」や「思い」「希望」を話されました。ディスカッションには竹口町長をはじめ町内外から60人が参加し、認知症の方々の暮らしにくさへの気付きや、「誰もが暮らしやすい町になるには」を考える一歩となりました。



一足先に認知症になった私たちから



パネラー
船原良夫さん（大山町）
58歳のとき脳梗塞発症



藤田和子さん（鳥取市）
日本認知症ワーキンググループ代表
アルツハイマー型認知症

生活の中で困っていること

- ・複数の行動が重なると、思うように行動できずに焦る。
- ・焦るとイライラする。自信がなくなり、自己嫌悪に陥る。
- ・調子のいい時と悪い時がある。
- ・声をかけあう関係だったのに、それが途絶える。
- ・やってみたいことがあっても「やめておきなさい」と周りから止められる。

生活について思うことや実践していること

- ・覚えられないので、手帳にメモをしたり、スマホに記録したりする。
- ・自分の弱みを出さないと強く生きていけない。見せかけだけの強さでは生きていけない。
- ・話すことで落ち着く。解決はしなくても、次のことへ向かう気持ちにしていく。

周りの方、町に期待すること

- ・日常的な声かけや、見守りを。
- ・できないことはサポートしてほしいが、ひとりで行えることが生活の基本。
- ・認知症があっても共生していく。「弱点を武器に」と考え、発信する人が増えればいい。
- ・無理だろうでなく、一緒にハードルを越えようと考え行動する仲間が必要で、たくさんの人と繋がるのが大切。困った時に助けを求められる関係があるといい。
- ・当事者同士で話をする事で、新しいことにチャレンジできる。

安心して暮らせる町に

竹口大紀大山町長

「認知機能の低下がみられる方の声を聞く必要がある」

本人が努力していることを聞き、町として、どのような支援ができるか議論を深めたい。現状では、生活のしづらさを明らかにされる方は少ないので、自分から発信したいと思ってもらえるような働きかけをしていきたい。

鳥取若年認知症サポートセンター長 前田好子さんに
「誰もがいきいきと活躍できる大山町に」

ひとりひとり多様性があり、違いがある。認知症があってもなくても自由に生活できる地域に。

認知症の方には分からないことがある。本人がどう思っているかを発言する機会を設けることが必要。政策と一緒に考え、実行し、検証できる町に。

『オレンジカフェ』をご存じですか。大山町内には、認知機能の低下した方々を中心としたつながりの場もあります。

認知症や認知症介護などについては、福祉介護課へご相談ください。
■講演会に関するお問い合わせは
福祉介護課へ

☎0859・54・5207

